まちづくり探訪 ⑦

“つながれ広がれＮＰＯの輪”の後継企画のこのコーナーでは、特定非営利活動法人や市民団体の活動を紹介していきます。

若い力で活力ある街に

オーフェス2014ひぶせ子どもの広場

～街のしゃべり場 in 水沢大町～

街のしゃべり場ｉｎ水沢大町（板屋裕治代表）による「オーフェス２０１４ひぶせ子どもの広場」が４月29日、水沢区の大町オマケット広場で行われました。晴天に恵まれたこの日、幼児や小中学生を中心とした子どもたちと家族連れが多数参加。「大食いダービー」や大町商店街を散策し、クイズに挑戦する「大町オリエンテーリング」、フリースローをはじめとした「ミニゲーム」などが行われ、参加者は楽しいひとときを過ごしました。

日高火防祭の開催に合わせて行われるこのイベントは、「最近の子ども達はお祭りと聞いても、わくわく・ドキドキしていないのでは――」という考えから、子どもたちに祭りの楽しさを感じてもらうとともに、大町地区の賑わいを創出することを目的に開催。イベントに参加すると、人気ゲーム機など豪華景品が当たる抽選券がもらえ、参加することで楽しめる参加型のイベント方式を取り入れました。会場内では27年度の42歳厄年連が屋台を出店。地域を盛り上げるために活動する団体への支援も忘れていません。

実行委員長の石川真希さん（35）は「毎年少しずつ変化を付けたいと思い、みんなでアイデアを出し合いました。想像以上に盛況で、子どもたちの誘導などが心配でしたが、スタッフが臨機応変に対応してくれました」とイベントの成功を喜びました。水沢区大町を中心に活動する同団体。今後もプロバスケットボールチームを呼んでのイベントや、産直市、キャンドルナイトなど、地元に勢いを呼ぶ事業を展開していく予定です。

＊　＊　＊　＊　＊

団体紹介

同団体の設立は、大町オマケット広場の建設にあたり、どんな施設を作ったら良いか、地元の若者が集まり相談したのがきっかけ。そのメンバーが中心となり、平成23年1月に設立しました。

〝飲みながらしゃべる〟、そこから良い案が出ると考え「街のしゃべり場」と命名。毎月第2木曜日に集まり懇親を深めています。「友達が友達を連れてきて、輪が広がっていくことが一番。この集まりを大切に、大町だけでなく水沢をもっと活気のある街にしたい」と板屋代表は話します。和気あいあいとした雰囲気のなか、意見交換が行われる同団体。中心市街地の活性化に関心のある人は、ぜひ参加してみてはいかがですか。

■街のしゃべり場ｉｎ水沢大町（事務局みんこみんか☎㊼４４３３）

1イベントの内容を綿密に打合せするしゃべり場の様子　2夢中でクラブを振る子どもたち　3豪華景品の当たる大抽選会　4多くの人が立ち寄りにぎわう会場　5ゴールを狙いシュートを放つ参加者

結 -ゆい- ㉕

～ 30の地区振興会による協働のまちづくり実践事例 ～

玉里振興会（たまさと）

■代表者：会長　菊池　正典（まさのり）
■人　口：1,788 人（男 869 人／女 919 人）
■世帯数：596 世帯帯
■拠　点：玉里地区センター
（江刺区玉里字青篠199番地３　☎FAX㊱2131）
（平成 26 年３月 31 日現在）

特色のある地区振興会の事業を紹介するこのコーナー。シリーズ25回目は、江刺区の玉里振興会を紹介します。

玉里地区は、市の北東部、江刺区のほぼ中央に位置しています。東部は、米里、伊手地区にまたがる阿茶山（あちゃやま）、長倉山（ながくらさん）の高原状の山地が連なり、西部は、南北に連なる万松寺山（ばんしょうじやま）を境に、いずれも丘陵に囲まれている自然豊かな場所。全国屈指の高品質銘柄米である「江刺金札米（きんさつまい）」をはじめとする稲作を中心に、畜産、リンゴなどの農業が盛んな地域です。また、当地区は胆江地区の電気発祥の地「柳沢発電所」があった所としても知られているほか、多数の名所や史跡がある歴史や伝統にあふれる地域でもあります。

玉里振興会の前身は、昭和44年3月に発足した玉里地区振興協議会。地域の振興や新たな郷土づくりの総括組織として活動してきました。その後、幾度かの組織再編をしながら、現在は、社会福祉、環境保健、生活安全、社会体育、生涯学習、女性、青年の7部体制で「住んでいい地域　住ませたい地域　玉里」を目指し、さまざまな事業を進めています。ここでは、その中の特徴的な事業を紹介します。

■ふるさと史跡探訪ウオーク

毎年秋に、郷土愛を育むことを目的に実施しています。4回目を迎えた昨年度は、約40人の地区民が参加。講師に地元の学芸員を招き、各所での説明などを受けながら巡りました。玉里地区センターをスタート地点とし、「大森追分石（おおもりおいしわけいし）・金華山石碑」「地蔵の前」「旧人首街道（ひとかべ）」など地元の有名な史跡から隠れた名所まで13カ所を巡りました。午前9時に出発し、午後3時までの長丁場となりましたが、参加者は、普段は見ることのない石碑を見るとともに、舗装されていない旧道を歩くことで、先人たちの営みを体験。地元の歴史や文化などをあらためて学ぶ良い機会となったことでしょう。

のぼりを手にウオークに出発

史跡や名所をじっくりと見学しました

■防災用井戸の整備

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、同地区でも地震による被害はもとより、停電や、5日後の3月16日まで断水するなど、日常生活でも大きな被害がありました。これを契機に、同振興会では「ライフライン」強化の必要性を再認識。そこで目をつけたのが、今となっては使用されることが少なくなった「井戸」でした。

同振興会では、19年度に防災マップを作製した際、地区全域の井戸、計40カ所を確認。防災用井戸の必要性が話題に上がったことから、20年度から使われなくなった空き家などの井戸の調査を進めていたところ、震災で整備の動きが加速しました。

そして24年度から、市のまちづくり交付金を活用し、「防災用井戸」として、電源不要の手押しポンプの整備に着手。現在までに、地域内に2カ所のポンプを整備しました。今後、想定される大規模災害時での使用はもちろんのこと、定期的な避難訓練などでも活用し、「災害に強いまち」を目指しています。

手押しポンプが整備された災害時用井戸